

登録コード	BSB92576	開講年度	2026				
授業題目	生命工学特別実験（22BS以降）					担当教員	小西 博昭
英文授業名	Advanced Experiments in Biotechnology					副担当	
単位数	4	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期		対象学生
講義室				授業形態	実験	備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】	
	2026BSカリ, 2025BSカリ, 2024BSカリ, 2023BSカリ						
	【専攻】健康・福祉・医療・創薬分野の研究者・技術者として科学・技術を発展させるための幅広い見識と健全な倫理観					生命工学研究に必要なタンパク質の実践的な扱いを理解する。	
(2)授業の概要	高等真核生物（特にヒト）の細胞情報伝達機構に関する教科書や論文を理解し、それに必要な実験技術を習得する。適宜、プレゼンテーション形式で理解した内容について発表を行う。同時に、自分自身の研究内容に反映させるべき点などを考察する。また、数回に一度は自分自身の研究の進捗状況を発表し、国際学術論文としてまとめるために必要な点や、方策について議論する。						
(3)授業計画	1～3．各自の研究テーマのこれまで背景の確認と目標設定 4～7．研究テーマに関連する論文の検索と読解 8～13．論文の紹介と質疑応答 14．研究テーマの進捗状況報告と方針の確認 15．研究発表（学会、論文）の準備						
(4)成績評価の方法	各自の研究結果について国際学術誌への投稿を目指す意欲の程度 1、世界の研究進捗状況を把握できている 2、あらたな知見を得るための方針を考えることができる 3、あらたな知見を得るための研究を実行できる 4、研究結果を論文発表できるように仕上げる						
(5)成績評価の基準	修士の間に上記4まで遂行できればS 3までであればA 1、2までできればB 1までであればC それ以下はD						
(6)事前事後学習の内容	実験計画を適宜おこなう。 実験結果を常にまとめておく。 講義の事前学習：講義のキーワード等を参考に事前調査し、調査結果を自分の言葉でノートにまとめること。また、教員から出された課題等に取り組むこと。 講義の事後学習：講義で紹介された内容を復習し、自分なりにノートにまとめること。加えて、講義で紹介された参考書や文献の調査を行い、その内容を自分の言葉でノートにまとめること。 以上の学習については、学習内容として決められた時間内にできる範囲を標準とする。 この授業は90時間の学修を必要とするため、60時間以上の時間外学習が必要となる。						
(7)履修上の注意	心身ともに健康であること						
(8)質問,相談への対応	対面、メールいずれも可						
(9)その他							
【教科書】	特になし						
【参考書】	これまで当研究室で発表してきた論文など						